

様式1

学校教育目標	自他を尊重し 主体的に学び続ける子どもの育成～ 社会に出て通じる力を、これからの社会に必要とされる力を～
--------	--

ミッション	道徳性の育成を基盤としたカリキュラム・マネジメントの充実	a ビジョン	(1) 将来に向けて、夢と志をもてる児童を育てる。そのために、基礎的な学力・体力・道徳性を身に付けさせる。 (2) 児童の自尊感情を高め、自分も人も認めることができる人間に育てる。 (3) 保護者・地域から信頼される学校になる。 (4) 教職員の総力を挙げた組織的で機能的な教育活動の推進を図る。
-------	------------------------------	--------	---

尾道市立因北小学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
他人の意見をよく聞き、自分の考えを持ち、それを自分の言葉で伝えることができる児童を育てる。	はっきりと聞こえる声で挨拶や返事をするので児童を育てる。	健康観察、テストの返却、挙手・指名時にははっきりと返事ができるまで繰り返し指導する。 挨拶名人の取組の時期や期間、方法を工夫する。 教職員による挨拶運動を質的に充実させる。	「はっきりと聞こえる声で挨拶や返事をするので児童全員の自己評価が向上する。」	90%	83%	92	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ する子はしっかりとしているが、しない子はしないという実態があり、全員にやらせきれていない教員の指導実態がある。 ・ 自分に自信がない児童が多い。 ・ 教員の日常生活の中での指導は充実してきているが、授業の中で力をつけるという意識が弱い。 ・ 児童が声を出さなければならぬ場面、話したいと思える場面を教員が十分に設定できていない。 ・ 児童は、挨拶や返事ができていても、ただ単に大きな声を出すだけという実態がある。 → 相手意識が弱いことが課題であるといえる。 	○	○	○	<p>○ 挨拶や掃除など、学校は取組を進めており、校内での成果も出ている。</p> <p>○ 大きな声で挨拶や返事をしてくれる子もいる。</p> <p>○ 先生方は、子供達をほめながらがんばっている。</p> <p>▲ 地域での挨拶が全然できていない。</p> <p>▲ ただ大きな声で挨拶をするのではなく、その場に合った挨拶、「笑顔で」「明るい」挨拶をすることが大事である。</p> <p>→ 先生方が「笑顔で」「明るく」挨拶をすることができればよい。</p> <p>▲ 掃除についても、校内環境が十分にできていないところがある。</p> <p>▲ 子供をほめることは大事であるが、ほめられないとできない、ほめられるためにするというようになるといけない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「何のためにするのか」を考えさせたり、担任から児童の実態に応じた言葉で伝える。 → 先生の前だけ、学校だけではなく、手を離れた状態（学級を出たとき、地域に出たときなど）でもできる子供にする。 ・ 教職員がすべてにおいてモデルとなる。 ・ 教職員が毅然とした統一的な指導を行う。全員が徹底指導をする。 ・ 各部の取組を充実させるとともに、児童会や各委員会の取組を充実させる。 ・ 6年生を中心に、児童が学校の課題を把握し、それを克服するために、何ができるか考えてできるように教職員が裏でしっかりと動く。 	
主体的に学び続ける児童を育てる。	「課題発見・解決学習」の充実により、課題意識をもってすすんで学び合う児童を育てる。	本時の目標に対応したまとめを自分の言葉でノートに書けるように指導する。 授業の終盤に「振り返り」を毎時間行う。	標準学力調査（国語、算数）で、学級の平均正答率を県の平均正答率以上にする。	20項目 / 22項目（2教科×11学級）	/	/	/	/	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思考力・判断力・表現力に課題がある。 ・ 授業で学習したことが生活に生かしていないという児童の思いがある。 → 学習したことが生かせる場を授業の中で設定することが十分にできていない。 	/	/	/	<p>○ 学校で補習をしてくれるのはありがたい。</p> <p>▲ 学習量が少ないように思う。</p> <p>▲ 個人個人の課題は異なる。どの時点でつまづいたのかを分析して、どういう方法が良いのかを考えて指導してもらいたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「授業で力をつける」をキーワードに、授業改善を進める。 ・ 毎週金曜日に実施している学力補充の時間の進め方を工夫する。 → 課題を分析する。 → 学習意欲を高める声掛けをし、下校後や土日にもやろうとする学習の流れをつくる。 → 校内体制で複数指導ができるようにする。
			「学びの変革」児童質問紙調査で、主体的な学習に関する質問に対し、児童全員の自己評価が向上する。	90%	71.8%	79.8	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを積極的に伝えること、相手にわかりやすく伝える工夫をすることなど、児童が表現することに苦手意識をもっている。 ・ 生活や学習の中で、既習事項をもとに自分の考えを深めたり広げたりしていると考えられる児童が少ない。 → 教員が、授業で学んだことを生活に生かす授業づくりができていない。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童は少しでも「おもしろい」と感じると、そこから興味をもって主体的に学ぶ意欲が湧くと思う。授業の中におもしろく感じる工夫をしてもらいたい。 ・ 自己評価の課題に「生活に生かす授業」を行うとあるが、良い課題であると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の導入の工夫、授業の導入の工夫を行い、児童が課題意識をもつ学習課題を設定する。 ・ 課題意識を持ち、それを解決するために、友達と協働する場面を効果的に設定する。 ・ 児童自ら学習のまとめが書けるような授業を行う。 ・ 学習内容が生活につながることを意識した学習場面を設定する。 ・ 総合的な学習の時間に、各教科で学んだことが生かされる場面を設定する。 	

【自己評価 評価】
A: 100≦ (目標達成)
C: 60≦ (もう少し) < 80
B: 80≦ (ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60
【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。